Column

特定健診モデル事業を受診して

府国保連合会嘱託　　亀井　励

来年４月から特定健診がはじまります。結果になにか問題があれば、保健指導を受けて改善に取り組まなければならないのです。

私自身は、毎年、同じ時期に同じ施設で人間ドックを受けていて、自分の体の状況は一応、把握しているつもりです。問題点を指摘された事柄については、さらに検査や診察を受けて対処してきました。

しかし、「メタボリックシンドロームの健康診断（特定健康診査モデル）受けてみませんか」という京都府国保組合協議会共同事業の呼びかけに興味をもって、健診を受けてみました。費用は無料です。モデル事業に参加した府医師会の医療機関は４９０とか。名簿を見ながらどこで受診するか考えましたが結局、例年人間ドックを受けている病院に決めました。モデル事業は７、８の２カ月間でしたが、７月初めに病院に電話した時は、担当者以外は事情がわからない様子でした。しかし、同月下旬に電話すると、話はよく通じ、８月初めに日程を決めました。

健診は午後２時から。血液検査をするから、直前５時間は水、茶以外は飲食禁止だといいます。ドックの時の朝食抜きは平気でも、昼食抜きはこたえますが仕方ありません。受診手続きのあと採尿、着替え、身体計測、採血、診察、着替えと全行程わずか３０分弱。腹囲測定では９０センチ（男性は８５センチ以上は肥満だそうだ）といわれて今更ながらがっかり。身長縮小、体重増加も気になるところ。計測してくれた保健師さんに「身長が短くなる人は多いですよ」となぐさめられました。

診察は若い女性の医師。「横になってください」と寝かされ、触診など形通りの診察があって、「結果はあとでお知らせしますから」と健診終了を言い渡された。え、もう終わり。血液検査の結果は分からなくても、半年前に受けたドックの数値は目の前にあるのだから、なにか言ってくれたらどうなの、という感じですが、医師は取り付くひまもありません。

そうか、やはりこれはモデル事業なんです。受診者個別の心配に応えてくれるという場

ではないんです。できるだけ数値を集め、結果を通知して改善に取り組ませるというシステムがうまく機能するかどうかをテストするモデル事業なんです。受診する私たちはモデルなんだから費用も無料。人間ドックとは違うんです。ようやく納得しました。